

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	地域の人達による心強い「ほほえみ応援隊」があり交流の場になっている。地域主催の歩け歩け運動に参加することで、顔馴染みになっている。老人会の稽古発表の場を提供したり、管理者が敬老会にて認知症の話をする機会があり、認知症に対する理解が深まっている。「ほほえみ便り」を地域に回覧させてもらい、ホームの生活の一部を紹介している。	
重点項目	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	運営推進会議のメンバーに自治会長、民生委員、市長寿社会課職員、地域住民、家族、入居者全員、職員で実施している。市からはホームが看取りに際してどのような介護が行われているのか質問があったり、理学療法士による腰痛体操の実演で、腰痛の軽減になる指導を受けた後、質疑応答に対して詳細に説明があったりした。管理者は運営推進会議が情報発信の場になればと前向きに取り組んでいる。	
重点項目	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	市からの依頼で2～3カ月に1回介護相談員を受け入れることでアドバイスを頂いている。民生委員からは独居の方の入居相談があり入居することになった事例もある。毎月ホーム便りに目を通してもらうことで、内容が一つの話題となっている。市から緊急時の相談等、当ホームなら大丈夫だろうという信頼関係もできている。	
重点項目	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族会は設けていないが運営推進会議に家族の参加が多く、家族会の代わりにもなっている。帰宅願望の強い入居者に対して、家族から本人の行動に制限が生じないようにしてほしいと言う意見があり、毎日職員と散歩に出かけることで、本人の行動を制限することなく解決したこともある。	
重点項目	その他軽減措置要件	評価
	「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	
	運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	×
	運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	
総合評価		×

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>地域の人達による「ほほえみ応援隊」があり、運営推進会議には地域住民の参加が多く、地域との連携がとれている。日常生活の中に避難訓練を無理なく上手に取り入れ、入居者は避難経路を毎日移動している。職員は常に入居者本位であるように、知恵を出し合い知識向上を目指し、入居者一人ひとりが主役の介護にあっている。</p>
--

1. 外部評価軽減要件

別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。

運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。

運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。

別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2 外部評価軽減要件 における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	<p>（例示）</p> <p>自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。</p> <p>地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。</p>
3. 運営推進会議を活かした取組み	<p>（例示）</p> <p>運営基準第85条の規定どおりに運用されている。</p> <p>運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。</p>
4. 市町村との連携	<p>（例示）</p> <p>運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。</p> <p>市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。</p>
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	<p>（例示）</p> <p>家族会を定期的（年2回以上）に開催している。</p> <p>利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。</p> <p>家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。</p>

（注）要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。